

平成 27 年 6 月 1 1 日

全日本大学バレーボール連盟

理事長 福田 順一

競技委員長 渡辺 剛

審判委員長 加治 健男

「給水のためのタイムアウト」の取り扱いについて

熱中症予防の観点から、**室内温度が 30 度以上の場合**、「給水のためのタイムアウト」を採用する。採用するタイミングは**各試合のプロトコール前**の室内温度とする。取扱いは次のようにする。

- 1 大会では、各セットにおいて、リードするチームが 6 人制 13 点、最終セットは 8 点（3 セットマッチの場合は 13 点）で 30 秒間の給水のためのタイムアウト(以下WTO)が自動的に適用される。その際、副審が吹笛をし、コートを退くよう促し計時をする。ハンドシグナルは示さない。
- 2 このWTOは給水を目的とするものであり、その間選手はウォームアップエリア付近で給水を行う。またチームスタッフはベンチに座っていることとし、選手に指示することはできない。（給水を行うか否かの判断は、選手本人の意思による。給水を行わなくても同エリア付近にとどまること。控えの選手も同様である。）
- 3 第5セットは、8 点でチェンジコートをした後に引き続きWTOとなる。（3セットマッチの場合は 13 点）その際、主審側を通過してコートを移動したチームがベンチ側のサイドラインを通過した時点で、副審が吹笛し計時を始める。
- 4 正規の中断の要求やリベロリプレイスメントよりもWTOを優先する。正規の中断やリベロリプレイスメントを行う場合は、WTOの後にその手続きをする。

以上。